
その電話は恐ろしい

鴉日和

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

その電話は恐ろしい

【Nコード】

N5387BA

【作者名】

鴉日和

【あらすじ】

重なる悲劇の、喜劇な話。

人気タレント、入江 優子は疲れ切っていた。二日前から、謎のストーリーカーに付きまといわれていたのだ。

毎日毎日、夜道を歩いていると必ず尾行されるし、家に居ても無言電話がかかってくる。

警察に言っても、実質的な被害が無いから取り合ってくれない。

そして、昨日の電話で「明日の昼もかけます」とストーリーカーに言われてから、優子は電話に対して心底怯えていた。

昼の十二時。優子は電話の前で固まっていた。いつかかってくるか、と身構えていたが、十分経っても、十五分経っても、電話は来ない。

その内、優子の中で緊張の糸が切れた。何だ、かかってこないのか。と、ホッとして胸を撫で下ろした……その瞬間だった。

電話が鳴り響いた。大きな大きな音だった。

「ぎえっ！」

優子の心臓がショックを起こした。そして止まった。その体が崩れ落ちる時、右手が電話に当たって受話器が取れた。

優子は床に倒れ、そして死んだ。

数秒置いて、電話はこう言った。

《タモリだけど、明日来てくれるかな？》

(後書き)

これが本当のテレフォン・ショッキング(ドヤッ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5387ba/>

その電話は恐ろしい

2012年1月14日21時51分発行